

「福祉」と「負担」

園長 山中 文

先日、何年かぶりに北欧の街に行きました。

人々は相変わらず親切で、親日家の方々も多い街です。トラムの降車場でうっかり待っていたら、わざわざ「そこからは乗れないよ」と教えてくれ、乗りたいトラムの乗り場を調べてくれたり、道で地図を広げていたら、「何か困っているんじゃない？」と声をかけてくれたりします。

小学校を見せていただきに伺いました。すこし早い時間について、正門のところで時間調整をしておりましたら、タクシーが次々と校舎に入っていきます。乗っているのは子どもです。どうしたことかと、現地でコーディネーターをお願いしている方に伺いました、なんと、遠方から通ってくる子どもたちを一人ひとり国の予算で送迎しているのだそうです。遠方だから教育が受けられないということがないようにという当然の配慮だ、とおっしゃっていました。

校長先生のお話の中にも「すべての子どもに正常な教育を、有意義な機会をと常に考えている」「(問題を抱えてきている子どもには) 学校はあなたを受け入れる、悪いことは聞かない、いいことを聞く」というお話がありました。たとえば、一人の子どもが鉛筆を口にくわえてブラブラさせていたとします。それを「ダメだよ」と咎めるのではなく、「鉛筆をくわえると幸せになるんだよ。皆でやってみよう」というのだそうです。そして、みんなでブラブラさせると、誰もがクスクスと笑い始めます。そこで、「ほうら、みんな幸せな笑顔になった」と微笑ましい雰囲気をつくるということでした。

さすがは、福祉の北欧です。

ところが、街の中に出ますと、数年前には見かけなかった物乞いの人たちを見かけます。なぜ福祉の充実しているこの国でと、コーディネーターに伺いますと、その方たちは移民なのだそうです。そして、伺ったところでは、この国の福祉はギブアンドテイクだ、高い福祉を得るためには我々はそれなりの負担をしている、その関係が取れない状況がこの移民問題で生じていて、それが今この国の社会問題だとのことでした。北欧の移民問題はニュースやネットで見聞きしておりましたが、これは、初めて聞く現地の方の生の声でした。

さて、日本では、間もなく消費税 10%時代を迎えます。あわせて、幼児教育においては無償化が始まります。日本の「福祉」と「負担」の問題は今後どうなっていくでしょう。他の国の様子も見ながら、考えていきたいものです。

